

# City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

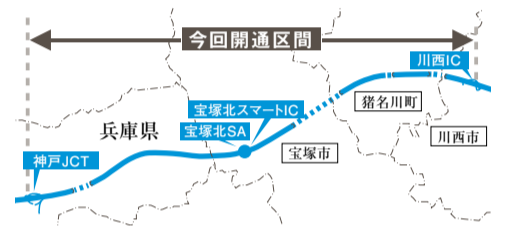
## 新名神高速道路 川西IC～神戸JCTが3/18(日)15時に開通 西日本最大級の 宝塚北SAもオープン



上下線の駐車場およびメイントイレ、店舗棟を屋内で結ぶエントランスのメインストリート。

### 宝塚らしさが魅力のSAがオープン

NEXCO西日本が建設を進めてきた新名神高速道路で、3月18日、川西ICから神戸JCTまでの16.9kmが開通し、区間内には「宝塚北SA(サービスエリア)」が同時オープンする。西日本最大の店舗面積と西日本最大級の駐車台数を誇る。上下線どちらからでも利用できる集約型の施設で、一般道からの利用もできる点が特徴だ。「タリーズコーヒー」やヨーグルトジェラートの「Yogorino」が西日本の高速道路では初出店となり、「アンリ・シャルパンティエ」「神戸フランチ」などの商品も同じく初めて販売される。また、外観は「宝塚モダン」をコンセプトとした南欧スタイルで、エントランスにはアンティーク照明や突き出し看板で



### 渋滞緩和などに期待

今回の開通により、高槻JCTから神戸JCTまでの全線が開通。名神・中国道ルートと比べて所要時間は平均で約6分、朝夕の混雑時には最大で54分と大幅に短縮する見込み。また、新名神への交通の分散により、全国有数の渋滞スポットとして知られている中国道の宝塚トンネル付近の渋滞緩和や、災害時の緊急輸送にも寄与すると見込まれている。

異国情緒を演出。ショッピングエリアには、宝塚の地元銘菓や加工品などのほか、神戸や大阪、京都など関西のお土産商品を中心に取り揃える。また、宝塚歌劇や手塚治虫ゆかりのグッズも販売し、店舗前には「火の鳥」「鉄腕アトム」のトピアリー(庭木を刈り込んで造形したもの)を設置するなど、宝塚らしさを全面に打ち出した魅力いっぱいのSAになる。



宝塚市中心部「花のみち」周辺の南欧風景観をイメージした「宝塚モダン」をコンセプトにした建物の外観。



24時間営業の東西おみやげマルシェ。

## 神戸学院大学 「防災女子」 アレルギー対応の 非常食を共同開発

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科の女子学生を中心に防災啓発活動に取り組む「防災女子」が、企業や病院などと共同でレトルトの非常食を開発した。アレルギー物質を含む特定原材料等(アレルゲン)に国が指定している27品目を使っていないのが特徴だ。

防災女子は平成26年に活動を開始。ポリ袋で調理できる災害食レシピを考案するなど、若い女性ならではのアイデアを活かした防災啓発活動を自主的に行ってきた。



防災ネットワークが開発し商品化されている「カレー」「シチュー」。防災女子は試食と助言で協力。いずれも火を使わずに調理できる。



「アレルギー対応食は、食材や調味料が限られるので味が淡泊になりがちですが、おいしい非常食を追求したい」と意気込む防災女子のリーダーとメンバー。

同グループの活動を知った合同会社防災ネットワーク(岡山市)が、アレルゲンフリーの非常食を製造販売するにあたって相談を持ちかけ、共同開発が始まった。防災女子が新商品のアイデアや試作品の改善案を出し、筑前煮や野菜あんかけ(中華丼風)、ミネストローネ、かぼちゃのスープが商品化され、2月末～3月に発売予定。今後は、3日間分(計9品)備蓄できるようメニューを増やすという。同社の担当者は「食物アレルギーや食事制限のある人も安心して食べられる非常食が必要です。学生ならではの自由な発想で今後も種類を増やし、多くの人の備えにしてもらいたい」と話す。

販売はBOSAI Food(防災フード)インターネットのみ <http://www.bosaifood.com/>

## 家財の片付けサービスを拡充し 高齢者の暮らしを支援

一般財団法人神戸すまいまちづくり公社が制度運営する「神戸すまいのあんしん入居制度」が2月より拡充し、利用しやすくなった。同制度は、ひとり暮らしの高齢者などが安心して住み続け、住み替えが必要となった場合にも円滑に住み替えられるようサポートする居住支援サービス。「家財の片付け」



片付け前

片付け後

や「安否確認」「連帯保証」など5種類のサービスを提供している。このうち「家財の片付け」について、終活ブームや空き家となった実家の処分などで依頼が増加しているため、サービスを提供する民間事業者を1社から3社に増やし対応する。問い合わせ先 078-222-0186

## 政令市初の代執行 危険な空家を強制撤去

神戸市では2月下旬から3月上旬にかけて、空家対策特別措置法に基づく代執行により、倒壊の恐れがある危険な空家を撤去する。昨年10月の台風21号で空家の外壁が倒壊するなど、地域住民に著しい危険が切迫していると判断した。同法に基づく代執行は政令市では初めて。住民からの通報など



倒壊の危険性がある、今回除却する神戸市中央区熊内橋通5丁目の建物。

で把握した改善を要する神戸市内の空家は、昨年末時点で878件。そのうちまだ改善されていない指導中等の空家が586件ある。所有者が判明した場合は、指導、勧告、氏名公表と段階的に行い、危険が切迫しているが命令に従わない場合は代執行に踏み切ることになる。